

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 241 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第7回

2017. 3.15

話：三沢浩

■ 寺子屋 241は4人の参加で開催されました。

■ 明治「近代建築」は単に洋風様式の模倣としか見られないけれど、その過程には、さまざまな技術の発展段階を地域性の中で醸成していくとともに、「建築」というものに対する認識・意識の醸成も並行していたようです。



↑ 「西郷従道邸」

↓ コンドル「ニコライ堂」「三菱1号館」



北海道の開拓使庁舎

新建・寺子屋(モダニズムの研究)241

2017. 3.15 話：三沢浩

—(第7回) 藤森照信著『日本の近代建築』の研究—

1. 前回(第6回)のスライドについて

- 1) 上巻の始めをスライドでみた
- 2) 長崎のグラバー邸など、ベランダコロニアル、その他が出島に
- 3) 長崎製鉄所(1861 ハルデス)や鹿児島にも工場(島津の集成館)が建つ
- 4) 神戸の洋館、明治村にある「西郷従道邸」(1877 レスカス)など
- 5) 北海道の下見板コロニアル、「開拓使庁」と「時計台」

2. 今回(第7回)のスライドの概要

- 1) 北大(農学校)の「モデルバーン」と下見板の校舎
- 2) 小樽の木骨石造倉庫、バスチャンによる「富岡製糸」
- 3) 金沢の尾山神社(津田吉之助)、山形の三島県令の仕事
- 4) 擬洋風の小学校「開智」(1876 立石清重)
- 5) 芸大に残るレンガ館とは(林忠恕か小島宣之か)
- 6) コンドルの「ニコライ堂」「古河館」「三菱1号館」「岩崎久彌邸」

3. コロニアル、洋式工場、擬洋風の時代をのぞく

- 1) 九州のコロニアルは東廻り、オランダ商館や鹿児島工場
- 2) その後に R.P.ブリジェンス(新橋駅 1871、桜木町駅)が働き、ナマコ壁も普及(三田演説館や新潟運上所)
- 3) 同時にウォートルスが大いに働き、銀座のレンガ街を
- 4) 札幌ではケブロン、北大にクラークやホイラーが
4. 日本人が洋風建築をつくる時代がきた

- 1) 清水喜助(2代)とブリジェンスの「築地ホテル」「第一銀行」
- 2) 林忠恕の官庁建築、文明開化の時代
- 3) そのあとがお雇い外人世界の10年間
- 4) 「本格派の」コンドルと工科大学造家学科(M10~19)
- 5) 擬洋風時代の共通性は洋式のまねごと(上巻 P140~150)

5. コンドルのあとがドイツのエンデ&ベックマン

- 1) コンドルのできなかった都市計画
- 2) 外務卿の井上馨と警視總監の三島通庸

次回 <寺子屋 242> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第8回

話：三沢浩

2017年4月19日(第3水曜日定例) PM 7:15~

場所：新宿区水道町2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400円

問合せ：大崎元 (有)建築工房匠屋 03-3716-1743 3716-8459(fax) VED03705@nifty.com